

姫路赤十字看護専門学校 学校評価結果 (令和2年度)

本校は、赤十字看護専門学校の特色ある看護教育の充実と教育水準の向上を目指し、毎年学校評価を実施しています。

今般、『日本赤十字社学校評価ガイドライン』が改訂され、併せてガイドラインの名称を変更した『赤十字看護専門学校における学校評価ガイドライン（平成27年改訂）』が策定され、平成27年度より、新ガイドラインを用いて学校評価を行っています。

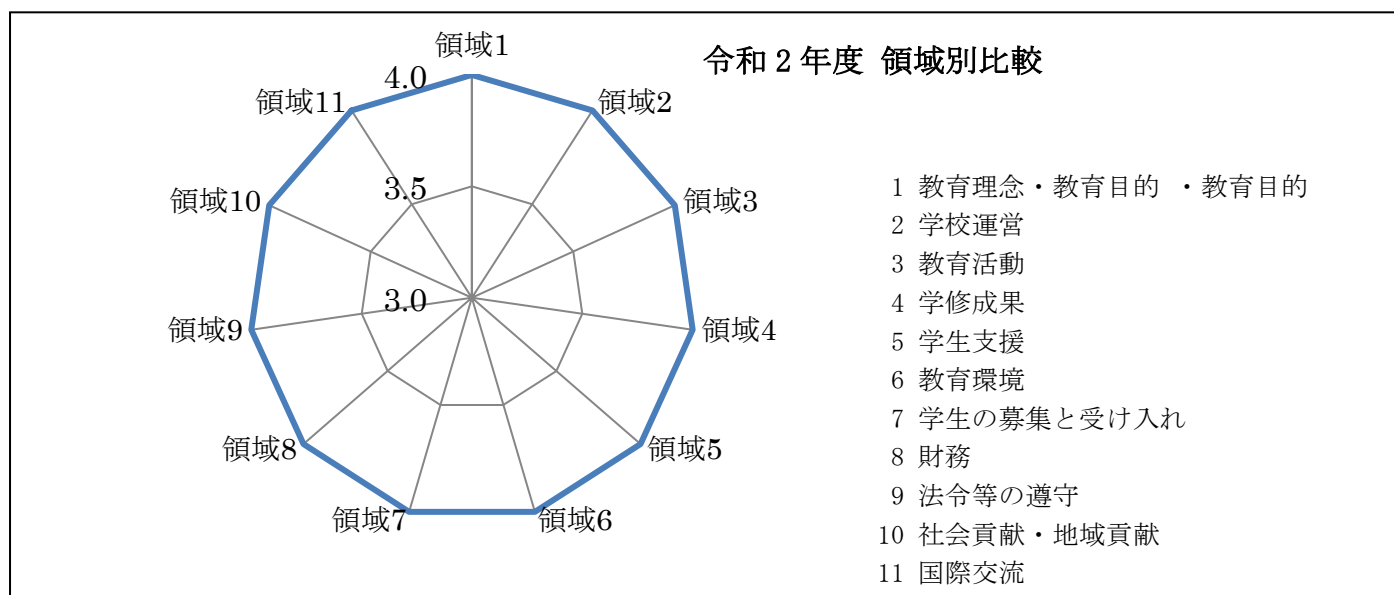
評価基準は、領域1から領域11までの大項目、38の中項目、64の小項目、評価の観点、評価指標で構成されています。教職員が、評価の指標について自己評価を行なった後、学校運営会議等で協議し、最終評価としています。

表1・2の数字は、各領域毎の平均値を示しています。新ガイドラインより4段階評価となりました。
(4段階評価 4：できている 3：まあまあできている 2：あまりできていない 1：できていない)

表1

領 域	R2	R1	H30	H29
1 教育理念・教育目的・教育目標	4.0	4.0	4.0	4.0
2 学校運営	4.0	4.0	4.0	4.0
3 教育活動	4.0	4.0	4.0	4.0
4 学修成果	4.0	4.0	4.0	4.0
5 学生支援	4.0	4.0	4.0	3.8
6 教育環境	4.0	4.0	4.0	4.0
7 学生の募集と受け入れ	4.0	4.0	4.0	4.0
8 財務	4.0	4.0	4.0	4.0
9 法令等の遵守	4.0	4.0	4.0	4.0
10 社会貢献・地域貢献	4.0	4.0	4.0	4.0
11 国際交流	4.0	4.0	4.0	4.0
平 均	4.0	4.0	4.0	4.0

表2



令和2年度 学校評価自己点検自己評価「各領域総括評価・総合評価」

姫路赤十字看護専門学校

領域	分析と今後の課題
1 教育 理念 ・ 目的 ・ 目標	<p>人道を基調とした教育理念・教育目標を学生便覧、教育課程冊子に記載して学生に配布しており、入学時オリエンテーションや実習オリエンテーション時などで説明し周知を図っている。学校運営会議、講師会議、学校関係者評価会議、実習調整会などを通じて、教育理念、教育目的、教育目標、年間の教育計画等を共有し、運営している。学生や保護者へは学校広報誌「カリオン」や保護者交流会などで理念等を周知し、アンケートを用いて周知度を確認している。また、理念等については社会の動向とニーズを確認しながら、適宜検討している。</p> <p>令和4年度からのカリキュラム改正に向けて、赤十字看護教育施設の教育理念、目的、目標・卒業時の到達目標、主な学習内容の検討し、準備を進めている。</p>
2 学 校 運 営	<p>学校運営を円滑に進めるために、赤十字の理念等、教育目標、事業計画をふまえ、運営方針を明確に定めて、運営会議で決定し、学校運営に携わるもの全員に周知徹底している。令和2年度までの中期計画(3年)の到達度を評価し、今年度は令和3年度からの中期計画を教職員で検討し、進捗が遅れているBCPについて軌道修正した。また、アクションプランを用いて単年度の事業計画を小グループ活動で進め、職員会議で進捗状況を報告している。</p> <p>学校運営に関する意思決定のために、学校運営会議、教育会議、教師会議、職員会議、講師会議を規程で定めて、年間計画をたて、適切に開催している。</p> <p>情報システムに関しては、学生の入学時から卒業後の状況について、情報を一元管理し、データの更新を適切に行い、個人情報漏えいが起こらないように、適切に管理している。次年度より電子教科書を導入し、Wi-Fi環境等も整備される予定であるため、学生の個人のデバイス使用に変更していく。</p> <p>また、データ収集・集計の効率化を図るため、各種アンケートなどは、今年度からWebアンケートを活用して行った。また、COVID-19感染対策に伴う学修機会の確保のため、設置医療施設の協力のもとオンライン会議システムを導入した。学校用パスワード等が外部に流出しないよう管理している。情報漏洩のないよう学生や教職員、非常勤講師へも利用マニュアルを用いて説明して実施している。</p>
3 教 育 活 動	<p>教育理念・教育目的・教育目標・科目が一貫性のある内容となるようカリキュラムを構築している。教育課程は教育目的・目標達成に向け体系的に編成している。学生の看護実践能力については、実習態度評価表に「社会人基礎力と行動指標」を用い、社会人基礎力を継続的に自己評価できるようにしている。その結果、学生が自身を振り返る機会になっている。</p> <p>今年度は、COVID-19の感染対策として、Web授業を導入し授業形態の選択や教育方法・教材等を工夫した。また、対象がイメージできるよう、業者による模擬患者演習を取り入れ、リアリティのある演習内容とした。</p> <p>臨地実習については、設置医療施設と実習調整会で実習方法について検討し、学生が看護の楽しさを体感できる実習を目指している。今年度、COVID-19による緊急事態宣言発出中は学内実習としたため、夏に補足実習を2日間実施した。</p> <p>安全教育・安全対策に関しては、COVID-19の対応として、「新型コロナウイルス感染防止について」の問診票を実習初日に提出、毎日セルフチェックを行い、学生の体調や行動を把握した。1月からの体調不良者は、PCR検査で陰性を確認し、実習を再開した。実習が不可能な場</p>

	<p>合は、自宅で課題学習をしたり、Web カンファレンスを実施したりして感染予防に努めた。</p> <p>成績評価・単位認定は、学則第 5 章と履修規程第 7 条の単位履修の要件や単位認定条件等に従って、成績評価、修了の認定を適正に行っている。</p> <p>資格・免許の取得の体制は、学習を自律して行えるよう支援しながら、1・2 年次は低学年模試、3 年次は全国模擬試験を計 8 回受験している。個人に対する学習支援はアドバイザーが中心となって個人面接を行い、計画を立てて学習するように指導している。</p> <p>教育課程に必要な教員数は、日本赤十字社看護専門学校規程に則った職員数を配置している。専任教員数は 8 名とされている。令和 4 年度から新カリキュラムでは専門分野ごとの配置数が求められ、本社は基礎看護学と成人看護学 2 名配置に伴い、10 名配置を目標としている。授業内容等の改善に関しては、教師会議のほか、講師会議、学生による授業評価、学生による学校評価調査、学校関係者評価など多角的に評価する機会を持っている。また、教員の教授力等に関しては学生による授業評価や講師会議等で評価する機会を設けている。</p> <p>教員ラダーの認定も推奨しており、今年度は、教員ラダーレベルⅡを 1 名の教員が取得した。また、2 年に一度開催される兵庫県専任教員養成講習会の研修生を 4 名受け入れたことで、各教員自身が自己の看護観や教育観などについて見直す機会となり、教員の資質向上への一助となっている。</p>
4 学 修 成 果	<p>設置医療施設へ就職を基本に、学生の適性など諸事情に応じて、県内および近隣府県の赤十字病院や県内の他の医療施設への就職希望について対応している。今年度の卒業生 38 名のうち、29 名が設置医療施設、県外の赤十字施設に 1 名、他の医療施設に 7 名が就職、1 名が就職未定(4 月採用決定)である。設置医療施設への就職率は 76.3%である。次年度、設置医療施設への就職者が 80%以上を目標として設定して進めていく。</p> <p>資格・免許の取得率は、平成 19 年度以降、看護師国家試験の合格率 100%を維持している。看護師国家試験に向けては、看護師国家試験傾向分析会での情報などを参考に受験対策を検討し、学生に伝達している。また、年間 8~10 回実施している模擬試験の全国データを入手し、本校の学生との比較検討、正答率の悪い問題の分析、学習強化を行っている。看護師国家試験合格状況は、看護師国家試験直後の自己採点結果および看護師国家試験合格通知書の点数から集計・分析している。看護師国家試験対策特別講義など学習指導の効果については卒業生にアンケート調査を行い、看護師国家試験の結果と合わせて次年度の講義内容や支援方法の検討を行っている。また、講師会議等を通じて、1 年次から学習が進められるよう講師へも依頼している。</p> <p>卒業生の社会的評価は、約 8 割の卒業生が就職する設置主体施設であるため、卒業生の評価、看護実践状況について、諸会議や研修、報告会、臨床現場などを通じて最新の活動状況を把握できる機会が多い。卒後 1 年目を対象にホームカミングデーを開催しており、参加者から卒業生の就職先・進学先での状況を聞く機会がある。卒業生の活動状況に関しては、姫路赤十字看護専門学校の同窓会は 2 年に 1 回開催されており、同窓生の現在の状況などを把握することができる。学校案内・学校新聞「カリオン」には、臨床等で活躍している卒業生からのコメントなどを紹介している。</p>
5 学 生 支 援	<p>学生の就職等の進路希望は面接で確認している。また、キャリア教育・キャリアデザインとして、①2 年生の夏季休業前にキャリアデザインガイダンス「就職活動準備講座」②2 年生の春季休業前に就職試験直前ガイダンスを実施している。そして、卒業前にナースセンターによる出張講義、租税教室、過労問題出張授業等を実施し、社会人としての自覚を高めている。3 年次の面接ではより具体的な将来のビジョンを聞き、個別の進路等の相談に応じている。</p> <p>学生の休学の要因としては、体調不良、進路への悩み、実習再履修が要因であった。実習の単位取得ができない学生の状況として学習不足、情報整理困難、コミュニケーション能力の低下などが挙げられる。また、退学の要因としては進路の変更希望、環境への不適応、単位未取得であった。学生の状況に応じて面談を実施したり、カウンセリングを勧めたりするなどの対応をしている。</p>

	<p>学生相談の体制としては、メンタルな問題を抱える学生は年々増加しており、特に実習開始に伴い不調を訴える学生が多いため、学年毎に臨床心理士によるメンタルヘルス講義を実施している。今年度は緊急事態宣言に伴う学生の今後の学修、実習に対して不安に対し、6月に追加でメンタルヘルス講義を実施した。設置医療施設には、学生が自由に利用できる「こころの相談室」が整備され、専任の心理相談員によるカウンセリングを受けることができる。</p> <p>学生生活は、COVID-19 感染症の予防対策を取りながら、学生が入学後に学習を継続できる支援体制を整えている。各種奨学金に加え、学生支援緊急給付金等の案内をして学修継続できるように手続きを進めた。学校保健計画を定め、年に1回校医による健康診断を実施、有所見者には受診を勧め、その後の経過観察もしている。結果も保管している。予防接種等も設置医療施設の協力のもと計画的に実施している。</p> <p>保護者との連携では、今年度は授業参観、戴帽式、卒業式を録画配信した。また、前期末と年度末に保護者あてに成績や学校新聞「カリオン」などを郵送することで、学校への理解と保護者との連携の一助となっている。</p> <p>緊急時の対応として、学生にはメールアドレスの登録を行っている。今年度は保護者にメーリングリスト登録を案内し、メーリングリストを利用した保護者への連絡体制導入準備が整った。</p>
6 教育環境	<p>平成13年に新築移転して約19年が経過しており、設置医療施設と連携し、施設の改修・改善を計画的に進めている。教育上必要な機械器具、標本、模型及び図書は、看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインに示されている数量を維持している。今年度はCOVID-19 感染予防対策のガイドラインに沿い、毎日、セルフチェック表を記入・入力し、自己の健康状態を確認するようにした。実習時は不織布マスク着用励行、手指消毒を強化した。また、学校入口、各教室に擦式手指消毒薬を設置した数を増やし、アルコールとミルトンを用いて清掃している。</p> <p>防災・安全管理として、学校保健安全法第27条で策定が規定されている学校安全計画を作成し、運用している。災害時の体制の整備として、危機管理マニュアルは、現在検討中である。</p> <p>全国赤十字副学校長会で事業継続計画（BCP）を基に前年度より自校のBCP（平常時、0～1）を運用し、平常時より水・食料を備えるように学生に伝えている。また複数の連絡手段確保のために個人記録を作成した。年度末には、保護者メーリングリストを整えた。また、消防署の調査結果に基づき、医療設置施設と協力し改善している。防犯体制を整備し、安全対策を講じている。必要時、設置医療施設に協力を得ながら対応している。万が一に備えて、全学生は総合補償制度Willに加入している。通学時に自転車を使用する学生には自転車損害賠償保険の加入を確認している。</p>
7 学生の募集受け入れ	<p>学生募集活動として、次年度から実施予定の推薦入学試験のお知らせとともに高校訪問を6校実施した。また、オープンキャンパスはWeb開催を含めて年間8回実施した。実施時期を春休みからとし、3月末に次年度分の初回を実施した。ホームページの内容についてアンケートを実施し、募集要項、学校生活、ブログ、よくあるQ&Aが多くアクセスしていることから、当校の魅力を十分伝えるため、ホームページの内容を刷新していく予定である。</p> <p>一般入試の志願者数は年々減少しており、今年度は前年度の8割に減少している。18歳人口は今後も漸減が続くが、受験生アンケートの結果では本校を第一志望としている者はやや増加傾向にあるため、次年度より本校においても推薦入試を導入していく。</p> <p>入学選考は、入学試験規程・入学試験合格者選考基準に則り、社会人入学試験と一般入学試験を行っている。今年度は、COVID-19の影響を鑑み、一般入学試験(二次)を実施した。幸い、陽性者や疑いの状況での二次試験の実施者は発生しなかった。</p> <p>学納金については、日本赤十字社看護専門学校学則準則に則り、運営会議で決定している。平成27年に近隣の学校を参考に、近畿の赤十字看護専門学校と調整し、受験料、入学金を値上げした。授業料、施設整備費については、現状維持の金額とした。また入学に際して必要なすべての金額に関して、募集要項等に明示している。</p>

8 財 務	<p>財務基盤として学納金、補助金以外の費用は設置医療施設が約1億円負担している。学校の経営基盤（設置医療施設の財政状況）は、毎年グラフで収支が教職員に示し、コスト管理を意識している。今年度1月よりIT推進化プロジェクトを立ち上げ、ペーパーレス化推進のほか、学修環境の整備、教務支援システムの導入などを検討し、教育の質の向上をめざしながら、コスト削減にも努めている。</p> <p>今年度の兵庫県看護職員県内定着支援事業補助金は、令和元年度の卒業生の県内への就職率（92.5%）が、兵庫県の基準（74.6%）を15%以上上回ったため、150万円の交付となった。そして、今年度は、COVID-19の対策として、「専修学校等遠隔授業環境整備事業」及び「私立専修学校等学校再開支援事業」により各50万円の交付があった。また、「実習補完事業」として演習補助要員への謝金23.9万円の補助があった。財務情報は、収支予算書・決算書をホームページ上に公開し、詳細項目については、設置医療施設において公開体制が整備されている。</p>
9 法 令 等 の 遵 守	<p>関係法令や看護学校設置基準等の遵守、個人情報保護、学校評価、教育情報の公開などの項目については、適切に運用し、学校運営を行っている。学校評価は赤十字看護専門学校における学校評価ガイドライン（平成27年度改訂）にそって、計画的に点検・評価を行っている。評価結果は運営会議や学校関係者評価会議等で検討し、改革・改善に取り組んでいる。また、報告書にまとめて学校広報誌やホームページ等に掲載している。ハラスメントについては、設置医療施設のハラスメント防止ブックを遵守して対応している。今年度、本校のハラスメント防止マニュアルを作成した。学生に対しては、学生便覧に学内における倫理について明記し、ハラスメントの種類にモラルハラスメントを追加した。また、悩みを抱えたままにせず、速やかな対応ができる方法を検討し、個人に配付している「こころの相談室」のカードの裏面に、ハラスメント相談員である人事課長、看護副部長、副学校長職務代理の連絡先（内線番号）を記載した。今年度はCOVID-19による休校中はホームページのブログを毎日更新し、メールによる学生との課題レポートのやりとりとともに、感想を募り、不安な気持ちを支援できるように努めた。学生たちの生活、思いを学生および教職員で共有しながら、つながりを持つよう工夫した。保護者によるアンケート結果でも「学校がお休みの中、毎日のようにホームページの更新がとても心強かった」という意見があった。</p>
10 社 会 貢 献 ・ 地 域 貢 献	<p>教員は、日本赤十字社兵庫県支部、兵庫県看護協会等の依頼を受けて、講演や研修の講師あるいは委員として活動している。赤十字健康生活支援講習講師あるいは赤十字講習の指導員としてボランティア要請に応じている。また、地域の小学校で体験交流活動「いのちの授業」の講師として参加している。</p> <p>学生は赤十字活動論の講義の中で、ボランティアについて学んでおり、全学生は奉仕団に所属し、ボランティア活動を活発に行うことで、地域とのつながりをもっている。今年度は内容を変更して、勉強会の実施やメッセージカードの送付や活動内容を動画配信を行った。</p>
11 国 際 交 流	<p><国際交流></p> <p>外国語1、外国語2は、英語を母国語とする外国人講師に日常英会話、外国語3は、医療英会話を依頼している。外国語4は、国際救援活動の経験が豊富な職員に国際看護として依頼している。</p> <p>また、例年、本社学生研修で赤十字の国際活動について講演を聴く機会やJICA関西を訪問する機会もあるが、今年度の本社研修、兵庫県支部訪問は中止となった。次年度の国際看護の講義や講演会等の企画で調整を図る予定である。</p>

<p>総合評価</p>	<p>本校は赤十字の基本理念「人道」を看護実践で具現化して活動する看護師を育成することを使命としている。教育理念・教育目的・教育目標・科目は一貫性があり、教育方法も教育理念・教育目的を反映させた内容になっている。</p> <p>本校ではキャリア教育を推進している。2年次はインターンシップの体験ができなかったが、学生アルバイトとして病棟の雰囲気を知る機会となった。また、3年次には、ナースセンターによる出張講義、租税教室、厚生労働省委託事業の過労死等防止対策等労働条件に関する啓発事業の出張授業を取り入れている。次年度からは年金セミナーや造血幹細胞移植推進特別講義の導入を検討している。</p> <p>社会人基礎力の育成については、実習態度評価表を「社会人基礎力と行動指標」に変更し、社会人基礎力を継続的に自己評価できるようにしている。今年度は、「実習以外の学生生活場面で養いたい態度・能力についての社会人基礎力と行動指標」「学生生活の中での社会人基礎力の行動指標」について学生に配布したので、次年度、教育課程のキャリア教育に追加する予定である。</p> <p>学生による授業評価は、Web アンケートに変更し、各教員・講師、実習施設に速やかに結果をフィードバックして、課題については検討できるようになった。しかし、Web アンケートのため、学生の回答割合が低くなっていることが課題である。</p> <p>学生募集と受け入れについては、赤十字看護教育の実際をわかりやすく伝えて応募者の増加につながるように努めている。次年度はホームページを刷新し、学校の魅力を伝える効果的なデザインと内容に変更して、推薦、社会人、一般入学試験受験者数の増加を試みる。また、高校の進路指導部の先生方との情報交換の機会を持ち、本校が求める良質な学生の確保に努めていく。</p> <p>オープンキャンパスはホームページや高校への郵送で希望日に申込みができるようにしている。3月のオープンキャンパスでは、授業動画やスタンプラリー等のゲーム感覚も取り入れ、学校の魅力を周知して選択できるよう工夫した。まん延防止等重点措置が発出されたため、推薦入学試験の説明を含めて5月には学校説明会をWebで開催し対応していく予定である。</p> <p>今年度はWeb開催であったため、教員全員が学会に参加することができた。また、院内学術研究発表会で1題、兵庫県看護協会西播支部「看護実践報告会」(Web)で1題、第15回医療の質・安全学会学術集会(Web)で1題発表した。</p> <p>保護者会は中止となったが、保護者との個別面談は軌道に乗りつつある。授業参観は、コロナ禍の対応として、1、2年生の授業参観は動画配信で視聴できるよう工夫した。また、3年生はケーススタディ発表を授業参観とし、保護者から学生にサプライズでメッセージを用意し好評であった。Webでの授業参観は、学生・保護者間の会話が増え、その影響もあり、今年度は、Web視聴とそれらのアンケートの内容を通しての学校とのコミュニケーションから学生、保護者それぞれの思いに触れることができた。</p> <p>財政面では、学生は高等教育修学支援制度が利用できるようになり、今年度入学生から設置主体施設の奨学金の貸与方法が変更となった。学校運営上、必要な教育の質を向上させながら、IT推進プロジェクトの活動を通して、コストマネジメントを実践し、教職員にとっても働きやすい職場環境の整備を図っていく。</p> <p>学生は、新型コロナウイルス感染症対策助成事業、日本学生支援機構の学生支援緊急給付金「学びの継続」や姫路市の緊急学生支援給付金などを学修継続のために活用ができた。</p> <p>設置医療施設や支部とは、運営会議などで将来構想について話し合っており、看護基礎教育体制の再構築に関して、学校運営会議で①赤十字のキャンパス化は財政確保が困難、②看護師確保の点から、当面、看護専門学校は存続の方針で決定している。日本看護協会では、専門学校4年制化が検討されており情報を共有しながら引き続き検討していく。</p>
-------------	--